

まど

「介護は人があつて成り立つ事業。これから技術を身につける若い人のサポートをしたい」

オホーツク管内滝上町の障害者支援施設滝上リハビリセンターの籠原稔施設長(60)は、思いをそう語る。4月、奨学金を返済する職員向けに助成

トポサへの未来

制度を新設した。人材確保のため道内の学校を回るうち、就職しても奨学金の返済に苦しむ若い人が多いことが分かり、制度を始めたという。

3年前からセンターで働く小野香さん(22)も早速、制度を活用する。認知症の祖父母を自宅で介護した経験から「介護の仕事に就きたい」と札幌

市の特設学校に進学し、奨学金を受けながら介護福祉士の資格を取得した。卒業後、月1万6千円の返済を続けてきたが、「かなりの負担だった」と打ち明ける。

同僚の畠中尚子さん(20)は、在学中に学費を滞納してしまい、一時は学校をやめることも考えた。センターが4年前に始めた修学資金貸与制度のおかげで無事に卒業できた。今春からセンターに勤務し奨学金返済の助成も受ける予定だ。畠中さんは「介護はコミュニケーション重視の面白い仕事。やりがいがあるので続けていきたい」と笑顔を見せた。

(川崎学)

